

作文の手順

この方法で確実に書ける

作文の具体的な解き方の手順です。前のページの「作文の鉄則」をくわしく説明します。

【解き方の手順】

- ① マーク 設問を読み、「何を書く」「どう書く」部分にマークする
- ② リスト マークから必要項目をリスト化し、段落構成などを決める
- ③ 下書き リストの下に、書く内容の大筋をメモする
- ④ 作文 下書きに従ってマークを確認しながら書く

具体的にどう進めるか、次の例題で説明します。よく読んで理解してください。

【例題1】 (静岡県改)

クラスの話し合いで、「行動するとき、それが自分のためになるかどうかを考えてからにしたほうがよい。」と発言した人がいた。この発言についての意見を、具体的な体験を含めて、百五十文字以上、百八十文字以内で書け。

見本版

【手順①】 マーク 設問を読み、「何を書く」「どう書く」部分にマークする

全ての問いは「何を答えなさい」「どう答えなさい」で作られています。「正確に読む」とは、この2つの重要ポイントを明らかにすることです。目立つようにマークすれば、見逃すことはありません。

たとえば例題1は何を答えろと言っているでしょうか。「あなたの意見」です。だから「意見」を書かなければ質問に答えたことになりません。一般に「意見」は賛成または反対の形をとります。これをはっきり答えるのが最低限必要なことです。

何を・What どう・How

「何を・どう」のマークについて、本書では次のルールを用います。「何」を意味する英単語「What」の頭文字をとって「W」を使います。また、「どう」を意味する英単語「How」の頭文字で「H」とします。「W」「H」を見つけたら、傍線や丸印などをつけてください。

では、マークしましょう。正確に「ここからここまで」ときっちり決めなくてもかまいません。このマークはメモの一種なので「このあたり」とわかれば十分です。本書ではこの後、**W「何」の部分**、**H「どう」の部分**、のように目印をつけて表します。

クラスの話し合いで、「行動するとき、それが自分のためになるかどうかを考えてからにしたほうがよい。」と発言した人がいた。Wこの発言についての意見を、H具体的な体験を含めて、H百五十文字以上、百八十文字以内で書け。

わかりましたか？ これで解答に必要な要素がはつきりしました。次に進みます。

吾輩の意見を見す記す!



手順② リストマークから必要項目をリスト化し、段落構成なども決める

まず、**W**に答えます。次に**H**です。

Wが最優先です。**H**だけでは答えたことになりません。**W**が正しく書いていて**H**が不十分なときは減点ですむ場合がありますが、**W**が無ければ1点ももらえません。ではリストの作例です。

- 1 発言についての意見 (**W**)
- 2 具体的な体験 (**H**)

これで、「何を (**W**)・どう (**H**)」書くのかが明らかになりました。次は下書きです。

手順③ 下書きリストの下に、書く内容の大筋をメモする

リストが大まかな構成案になっています。この下に続けて内容をメモして「下書き」を作成します。

- 1 発言についての意見 (**W**) 賛成
- 2 具体的な体験 (**H**) 考えて行動して得した・去年、部活で

これで入試作文正解の準備ができました。このように正確に読んでイメージをまとめれば、もうできたようなものです。後は実際に書くだけです。

Hの文字数指定を確認して、解答用紙のマスに、マークしておくといよいでしょう。

「〽字以内」「〽字程度」のような指定の場合は、**10%以内のズレが理想的**です。ただし、**20%までは許容範囲**です。「二百字以内」なら百六十字以上で、「二百字程度」なら百六十字～二百四十字までと考えてください。

手順④ 作文1 下書きに従ってマークを確認しながら書く

実際に書く上での注意点をまとめます。

文体は指定がなければ「常体（だ・である）」を用います。次に、文は短く切る。「。」までが短いほど書きやすくなります。最後に、「できるだけ設問の表現を使う」ことです。楽しんで正確に書くコツです。

では、1 発言についての意見 (**W**) の解答例です。

解答例1 この発言についての私の意見を記す。賛成である。

解答例2 この発言についての私の意見を記す。反対である。

賛成・反対のどちらでもかまいません。ぶつきらぼうな感じがするかもしれませんが、これが「解答の本体」です。設問に正しく答えるとはこういうことなのです。

これは、「できるだけ設問の表現を使う」方法です。設問に「この発言についての意見」とあるので「この発言についての私の意見を記す。」とほとんどそのまま使っています。きれいな表現ではありませんが、絶対確実です。

実際には「私はこの発言に賛成である。」と書けば十分です。

次に、**H**「具体的な体験」をどう書くか教えましょう。

「**W**」のときの解答例1・2と同じです。設問の表現をそのまま使います。

解答例1 この発言についての私の意見を記す。 **W**賛成である。体験を次に記す。

H〇〇ということがあった。

Wと**H**のマークも対応させました。あとは「〇〇」部分を書くだけです。これで完全な解答が完成します。

手順④ 続き 作文2 文章作成のポイント

文章形式のポイント

まず、形式についてのポイントです。前のページの内容をくり返します。

文体は指定がなければ「常体（～だ・～である）」を用いましょう。敬体（ていねい語や敬語）は書きまちがえるおそれがあります。

次に、文は短く切る。「」までが長く続けると、途中でわかりにくくなったり、うまくまとまらなくなったりします。短いほど書きやすくなります。

最後に、「できるだけ設問の表現を使う」ことを加えます。楽しんで正確に書くコツです。

文章内容のポイント

体験、理由、根拠などではできるだけ具体的に書くことです。「それがよいから」では説明になりません。他人が読んで多少でも納得できるように具体的に書くべきです。

「体験」などは事実である必要はない——あれこれ思い出したりする時間が惜しいので、多少創作が入ってもほとんど書き進めるべきです。

「決めフレーズ」を所要所に使う——次のようなものです。「私の意見を次に記す」「理由を次に記す」「私の体験を次に記す」などです。「」を次に記す。」は万能の小道具と言えます。これを使えば、文をつなぐのが楽な上、どこことなくレベルが高そうに見えます。

字数調整のポイント

字数が不足している場合は、次の方法を試みます。

最後にもう一度意見（結論）を記します。「以上の理由から、私はこの意見に反対する。」などのように反復することです。これで一定のボリュームが確保できます。これを「段落分」にする方法もあります（段落数指定がある場合はそちらを守る）。

次に「具体的な記述を増やす」ことです。体験を書く場合「小学生のとき、サッカーの試合に出た。」だけで終わらせずに、次のようにひきのびします。「小学校4年生から6年生までサッカーをやっていた。色々なポジションを経験した。6年生の夏休み、8月の終わり頃に試合に出た。」これだいたいこの字数不足は解決します。

では、以上のポイントをもう一度まとめます。

文章作成のポイント・まとめ

もう一度確認

文章形式のポイント

- ① 文体1 指定がなければ常体（言い切り）
 - ② 文体2 一文はできるだけ短くシンプルに
 - ③ 設問の活用 できるだけ設問の表現を使う
- 設問「この発言についての意見」↓解答「この発言についての私の意見を記す。」

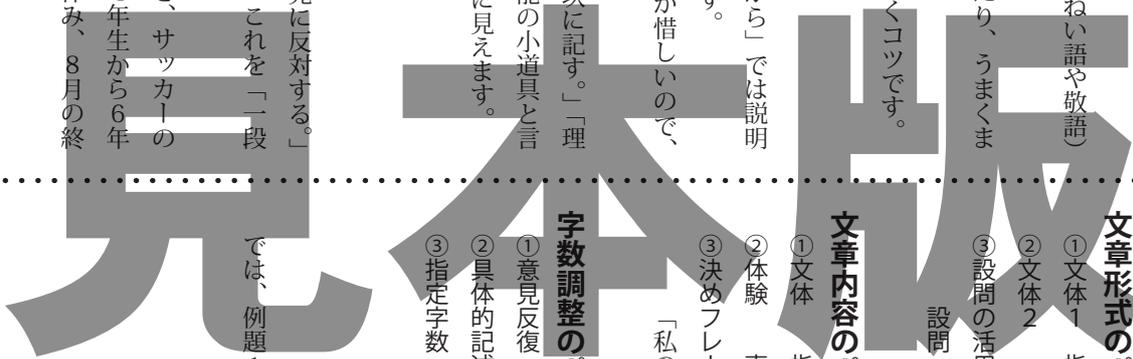
文章内容のポイント

- ① 文体 指定がなければ常体（言い切り）
 - ② 体験 事実である必要はない
 - ③ 決めフレーズ 所要所に次のようなフレーズを
- 「私の意見を次に記す」「理由を次に記す」「私の体験を次に記す。」

字数調整のポイント

- ① 意見反復 はじめに書いた意見を最後にもう一度反復
- ② 具体的記述 体験などをより細かく書いて字数を増やす
- ③ 指定字数 「以内」はマイナス20%、「程度」はプラスマイナス20%までが許容範囲

では、例題1の解き方を、手順①～④に沿って確認しましょう。



練習問題1 解法と解説

手順の確認

- ① マーク 設問の「何を・W」「どう・H」の部分にマークする。
- ② リスト マークから必要項目をリスト化し、段落などを決める。
- ③ 下書き リストの下に、書く内容の大筋をメモする。
- ④ 作文 下書きに従ってマークを確認しながら書く。

① マーク

ある中学校で、国語の時間にW新聞の投書を読み、みなで意見文を書くことになりました。次の【投書】を読んで、あとの(1)～(3)に従って文章を書きなさい。(投書省略)

- 1 題名を書かないこと。
- 2 H二段落構成とし、H第一段落では【投書】に対する自分の意見を書き、H第二段落では、その理由を、具体例をあげながら書くこと。
- 3 H百五十文字以上、二百字以内で書くこと。

② リスト

- 1 投書に対する意見
- 2 理由・具体例

③ 下書き

- 1 投書に対する意見 —— 反対
- 2 理由・具体例 —— ピアノ、パソコン、英会話、スイミング、バレーボール、書道
いろいろな習い事をした。楽しかった。いろいろな人に出会えたことがよかった。
向き不向きもわかった。

④ 作文 (解答例)

私はこの投書の意見に反対である。次に理由を記す。

私はピアノとスイミング、英会話を習った。次はバレーボールと書道を始めた。中学生になりバレーボールはやめ、パソコン教室と学習塾に行き始めた。様々な習い事や学習を体験した。いろいろな先生や友達に出会うことができた。どれも楽しかった。また、自分に向き不向きがあることもわかった。これらは一つのことだけが続けていたのでは得られないものだと考える。

■ 解説

Wは「投書に対する意見」ですから、賛成・反対で書くのが確実です。

Hは「理由を、具体例をあげながら」となっています。「理由と具体例どちらも書くの？」と心配になった人もいるでしょう。「理由を書くように指示がありますから、「理由」が主で、説明のために「具体例をあげる」ということです。

解答はまず結論「私はこの投書の意見に反対である。」を書きます。次に基本に従って「次に理由を記す。」の一文を入れました。これで第一段落が完成しました。

第二段落は理由と具体例(体験)です。また、傍線部は「狭く深く」の短所に触れています。字数に余裕があれば、対立する側の短所を書くことで説得力が増します。

もし、文字数が足りないようなら、最後に「以上のことから私はこの投書の意見に反対である。(二十二字)」で調整すればよいでしょう。この言い回しと文字数を、だいたい覚えておくとう便利です。ただし、段落数を増やすと条件を守らなかったことになるので、第二段落の最後に加えて終わりにします。

■ 参考・賛成の場合の解答例

私はこの投書の意見に賛成である。次に理由を記す。

私は5才からスイミングにずっと通っている。他のスポーツや習い事に興味をもつこともあった。しかし、スイミングだけを続けた。スポーツに得意不得意もあるが、泳ぎには自信がある。大好きだ。一生続けられそうである。なにごとにも、一つのことには深く取り組むよさがあるのではないだろうか。私もそう思う。

※傍線部を【投書】から引用して字数調整をしました。この方法も知っておきましょう。



中1男子の作例

		え	え	ら	ン	ス	あ	ワ	私
		る	な	れ	ト	マ	る	リ	は
		か	い	る	交	ス	°	ス	冬
		ら	親	か	換	パ	私	マ	を
		だ	族	ら	を	1	の	ス	選
		°	と	だ	し	テ	体	や	ぶ
		よ	会	°	た	イ	験	お	°
		っ	え	お	り	し	を	正	理
		て	、	正	、	を	次	月	由
		私	お	月	ケ	し	に	が	を
		は	年	は	1	て	記	あ	次
		冬	玉	、	キ	、	す	る	に
		を	を	普	を	プ	°	か	記
		選	も	段	食	レ	ワ	ら	す
		ふ	ら	会	べ	せ	り	で	°
150	135	120	105	90	75	60	45	30	15

■作文指導作例集
 2017年7月
 対象：中1・中2生
 方法：20分のミニ講義
 の後実際に作文

指導実績/問題と解答例

中2男子の作例

を	る	き	だ	た	ち	去	感	暑	私
選	こ	る	け	事	°	年	じ	く	は
ぶ	と		で	は	た	の	る	も	者
°	か	強	な			4	こ	な	を
	あ	い	く	自	そ	月	と	く	選
	°	意	、	分	の	る	が		ぶ
	た	志	自	の	時	日	で	さ	°
	°	か	分	成			き	ら	な
	だ	め	の	長	私	私	る	に	せ
	か	は	意	°	が	は	か	自	な
	ら	え	見	°	第		ら	分	ら
		た	を	た	1	中	で	の	
	私	と	尊	°	に	学	あ	成	暑
	は	思	重	身	感	生	る	長	く
	春	え	で	長	じ	に	°	せ	も
150	135	120	105	90	75	60	45	30	15

中2女子の作例

	り	し	は	咲	外	る	く	節	私
	、	い	、	い	で	。に	は	は	
	そ	姿	こ	て	お	中	桜	春	春
	れ	に	の	い	分	学	が	た	夏
	か	と	時	て	当	生	ま	。秋	
	ら	て	の	と	を	の	う	理	冬
	春	も	桜	て	食	初	所	由	の
	か	目	が	も	へ	め	か	は	中
	好	が	き	れ	た	の	美	桜	で
	き	は	れ ₁₀₀	い	時	に	し	か	一
	に	な	い	た		ろ	い	好	番
	な	せ	に	て	桜		か	き	好
	っ	な	ま	た	が	学	局	で	き
	た	く	う	。明	年	で			な
	。な	美	私	く	で	あ	と	季	15

指導実績/問題と解答例